

京都市の 教育 改革

市民ぐるみ・地域ぐるみで進める

…………… 目指す子ども像 ……………

伝統と文化を受け継ぎ
次代と自らの未来を切り拓く子ども

かまどきん 「竈金の精神」を今に

京都は明治維新の東京遷都に伴い、人口が約33万人から約23万人に激減するという衰退の危機を迎えました。この時、京都の町衆は、「まちづくりは人づくりから」と子どもの有無にかかわらず、竈のある家はすべて「竈金(かまどきん)」と呼ばれるお金を出し合い、地域の子もたちが学ぶことができる日本最初の64の学区制小学校「番組小学校」を創設・運営しました。明治5年の国の学制発布に先立つ、明治2年のことです。

本市では、こうした歴史と伝統を礎に、各学校・幼稚園が教育目標を保護者・地域と共有しながら、「開かれた学校づくり」を基盤とする市民ぐるみ・地域ぐるみの教育を推進してきました。

次期学習指導要領(平成30年度から順次実施予定)の理念である、地域社会や家庭との連携・協働による「社会に開かれた教育課程」には、こうした本市教育の先導的な実践が反映されており、今後ともその歩みをさらに確かなものにするため様々な取組を進めてまいります。

京都市教育委員会

市民と共に進める京都ならではの教育改革

学校・家庭・地域の絆 「学校運営協議会」と「学校評価」

「地域の子どもは地域で育てる」という理念の下、学校運営に保護者や地域の方等が参画する京都方式の「学校運営協議会」制度を積極的に導入しています。平成28年度末現在、全国市町村で最多の239の学校・幼稚園（小学校は政令指定都市初となる全校）に設置しています。

■「京都方式」の学校運営協議会

本市が進める学校運営協議会は、学校運営のあり方や改善策だけでなく、「子どもたちのために大人として何ができるのか」を学校と一緒に考え、共に汗をかき行動する「京都方式」として進めています。



▲学校運営協議会

■学校評価への関わり

学校の教育活動を振り返り、改善につなげる「学校評価」を全校・園で実施しています。児童・生徒及び保護者等のアンケートを踏まえた学校による自己評価に加え、学校運営協議会や学校評議員による学校関係者評価も実施し、結果を公表するとともに、よりよい学校づくりに役立てています。

京都ならではの伝統文化教育・体験

地域の方や大学、博物館、神社仏閣、企業、文化庁等の協力を得て、文化的・歴史的遺産や、地域の伝統行事などを通し、京都ならではの伝統文化教育や体験活動を行っています。

■伝統文化体験の充実

・文化庁の京都への全面移転が決定したことを契機に、子どもたちが伝統文化に親しみ大切にする態度を養うため、小中学校への専門家の派遣による和装や茶道、琵琶など、「ほんもの」に触れる活動やすべての高等学校で茶道体験を実施するなど、伝統文化に関する活動の充実を図っています。

・「古典の日記念 京都市平安京創生館」（京都市生涯学習総合センター1階）では、案内ボランティアの解説により、平安京を体感する学習に取り組んでいます。



▲琵琶の演奏を体験

■歴史都市・京都から学ぶジュニア京都検定

京都の伝統と文化を次代へ継承し、その魅力を発信できる子どもたちを育てるため、独自のテキストを小学4年生全員に配布。小学5年生に「基礎コース」、6年生に「発展コース」、発展コース受検者に「名人コース」の検定を実施しているほか、京都の特色を生かした体験活動を実施しています。また、「ジュニア京都検定」で育んだ興味・関心・知識をさらに深めるため、市内在住・在学の中高生を対象に「京都・観光文化検定（3級）」（主催：京都商工会議所）の受験の機会を提供しています。



▲祇園祭のお囃子体験

「支え」「守り」「高める」 ボランティアの方々の活躍

■学校支援ボランティア

伝統文化・芸術・スポーツ等、様々な分野の豊富な知識や技能を持った多くの市民の方々に、子どもたちの教育活動がより豊かなものとなるよう支援していただいています。

■大学のまち京都で活躍する「学生ボランティア」

大学との連携の下、教員を目指す学生や専門的知識・技能を持った学生（約2千名）が、ボランティアとして、学校・幼稚園で授業や部活動など様々な教育活動を支援しています。学生自身が教育実践を具体的に学び、成長する機会にもなっています。



学生ボランティアによる支援▶

■見守り隊

全小中学校区で、延べ2万人の保護者や地域の方、学生、地元企業の方々に、通学路などで毎日、登下校中の子どもたちの安全確保のための活動を展開していただいています。



Do You Kyoto ? 環境モデル都市・京都での取組

地球温暖化を防止するための京都議定書の採択から、平成29年度で20周年を迎えます。これを機に、これまで先進的に実施してきた本市の環境教育を一層推進します。

■環境にやさしい学校

各学校での環境宣言やKES学校版（環境にやさしい学校）の全校認証を踏まえ、節電・節水、清掃活動など環境改善に向けた取組を進めています。また、小学校では子ども版「環境家計簿」を実践する「子どもエコライフチャレンジ事業」に取り組んでいます。



▲学校ビオトープでの学習

■京都商工会議所による環境学習事業

京都の様々な企業が自社の環境技術や環境問題への取組をテーマとした授業を実施されています。

大学のまち・ものづくり都市ならではの 産・学・公の連携

■京都まなびの街生き方探究館

地域や社会との関わりの中で自らの生き方を考える「生き方探究（キャリア）教育」に特化した体験型学習施設です。施設内に再現した「街」での職業体験や生活設計体験、京都のものづくり企業創業者の生き方やものづくりの基礎を学ぶ学習など、企業等の御協力の下、全国に類を見ない施設として注目されています。

■大学との連携

・113大学と連携協定を締結し、学生ボランティアの派遣をはじめ、相互の教育活動の充実を図っています。
・京都大学との連携では、大学のゼミでの学習や、総合博物館や附属天文台などの研究施設での体験学習を充実させています。



▲花山天文台での学習

■京都芸術教育コンソーシアム ～Art-e Kyoto（アルテ京都）～

京都・滋賀の芸術系5大学と小中学校が連携し、芸術教育の充実をはじめ、学校の余裕教室を活用した大学生の制作活動など、芸術を大切にする風土づくりに向け特色ある取組を進めています。



小学校の教室がアトリエに▶

■京都教育懇話会

京都を中心とした企業・大学・行政や市民等が会員として集い、グローバル新時代の人材育成について、様々な視点から議論を深め、フォーラム等で広く提言・発信しています。随時会員（法人・個人）を募集しています。

問い合わせ：京都教育懇話会事務局

ホームページ又はTEL(075)813-8292

■京（みやこ）少年少女モノづくり倶楽部

小中学生を対象に、興味・関心に応じた多様なものづくり活動の機会を提供するため、企業や大学、各種団体等の協力を得て、市内各所で実施されるものづくり講座等の情報を発信しています。

問い合わせ：京都まなびの街生き方探究館

TEL(075)253-0880



和食の心をつなぐ・育む 「京都ならではの食育」

■学校給食における和食の充実

・月1回程度「和食推進の日」を設定し、「だし」のうま味を味わえる汁物等や和菓子など伝統行事にちなんだ献立（「和（なごみ）献立」）を提供しています。

・食器は和食文化の豊かさを支える要素の一つであることから、

給食に、より味わいを感じることができるPEN食器（※）を導入しています。（平成27年度から3年計画） ※PEN（ポリエチレンナフタレート）樹脂製の食器。耐熱性や耐薬品性に優れています。

・和食献立の充実と多様化を図るため、従来の回転釜では対応できなかった「焼き物」等を調理できる「スチームコンベクションオープン」を導入します。（平成29年度から5年計画）



▲給食時間

■プロから学ぶ食育

日本料理アカデミー、中央卸売市場協会、京都青果合同株式会社、京都府漬物協同組合等との協働で、小学生が「だし」のうま味や旬の食材の調理などを通して、「京の食文化」を学びます。中学校では、全日本司厨士協会の協力のもと、テーブルマナーなどを学んでいます。



▲和食の料理人による食育授業

■栄養教諭の全校配置

食物アレルギーへの対応や食育の充実に向け、全ての小学校に栄養教諭を配置しています。

地域との「共汗」で取り組む学校統合 新しい時代を創造する学校づくり

児童生徒数が減少している地域では、保護者や地域の方々と行政・学校などが協働し、子どもたちのより良い教育環境づくりに向け学校統合を推進しています。

これまでに83の学校・幼稚園を22校園に統合し、充実した教育環境を実現しています。



平成31年度開校予定の向島中学校区小中一貫教育校の外観イメージ

小中学校9年間の学びと育ち

小中一貫教育の推進

- 義務教育9年間で子どもたちの豊かな「学び」と「育ち」を目指し、小学校と中学校が育てたい子ども像を共有する小中一貫教育を全市で実践しています。
- 小学生が中学校に出向いて授業や部活動を体験したり、小学校と中学校の教職員が互いに授業や教育内容を学び合って指導力を高めたりするなど、小中学校9年間を同じ施設で学ぶ学校だけでなく、すべての学校で創意工夫ある取組が進められています。
- 中学校入学時に学校生活に不応を起すいわゆる「中1ギャップ」の解消や、学力向上など、様々な成果が表れています。



▲入学式で新入生の手を取る中学生

学力向上に向けた取組

■全国トップレベルの授業日数

年間の授業日数を205日以上とするとともに、年間197回の学校給食を実施することで、国の学習指導要領の標準を上回る授業時数を確保し、多様な活動と豊かな学びの実現を目指す取組を進めています。

■京都市小中一貫学習支援プログラム

義務教育9年間を通じて児童生徒の自学自習の習慣化と確かな学力の定着を図るため、予習⇒確認テスト⇒復習を1サイクルとした小中一貫の学習支援プログラム(小学校「プレジョイントプログラム」・「ジョイントプログラム」、中学校「学習確認プログラム」)を小学3年生から中学3年生までで全15回実施します。



■少人数学級・習熟度別の授業(本市独自予算)

・小学1・2年生で35人学級、中学3年生で30人学級を実施し、きめ細かな指導を行うとともに、小学3年生から中学2年生までの学級においても、国で定められた教員数に加えて約180人の教員を配置し、少人数教育を推進しています。

・幼稚園等から小学校への円滑な移行と学校での生活習慣や学習習慣の定着のため、小学1・2年生の31人以上のすべての学級において、複数教員によるティーム・ティーチングを実施しています。

■土曜学習

すべての小中学校で、土日祝日などの学校休業日に、学校運営協議会や保護者・地域、学生のボランティア等の支援をいただき、学習活動や体験活動を行っています。



▲中学校での土曜学習

■放課後・学力ステップアップ事業

家庭環境にかかわらず、すべての子どもたちがその可能性を最大限に伸ばし、自らの未来を切り拓いていけるようすべての中学校で放課後等に基礎学力の定着を図るための学習支援を行います。

■自学自習のすすめ

「学びの基本」や「家庭での学習習慣を身につけるためのヒント」を示した「自学自習のすすめ」を小学校、中学校、総合支援学校の入学時に全児童・生徒に配布。自学自習の習慣化を目指した取組を進めています。



道徳教育の充実

■開かれた道徳教育

本市独自の指導計画や指導資料集の活用に加え、「京都市道徳教育振興市民会議」の提言(平成16年)を踏まえ、学校・家庭・地域が一体となった市民ぐるみの道徳教育を推進しています。平成27年度からは、6月・10月を「道徳教育推進月間」として、全小中学校の全学級で公開授業を実施し、保護者・地域への積極的な情報発信に努めています。また平成28年4月からは、すべての小・中・総合支援学校(小学部・中学部)において、一部改正後の学習指導要領に沿った道徳を先行実施するなど、教科化に向けた取組を推進しています。

多文化理解と京都の魅力発信!! グローバルコミュニケーション力の育成

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、歴史都市・京都の魅力を外国からの訪問者等に子どもたちが自分の言葉で伝えて「おもてなし」できることを目指した英語教育を進めています。

■グローバルコミュニケーション力育成プロジェクト

・全小中学校で英語による放送や校内掲示物の英語表記、イングリッシュデーの設定などの「イングリッシュシャワー」の取組を実施し、子どもたちが日常的に英語を体感しています。

・ネイティブスピーカーである、ALT(外国語指導助手)を全小中学校に配置し、英語を使ってコミュニケーションを図ることができる態度を育成するとともに、異文化理解・国際理解教育を進めています。

■小学校英語教育の推進

本市では平成29年度から全小学校の3・4年生で「英語活動」を開始し、次期学習指導要領の全面実施(平成32年度)に先立ち、平成30年度には3・4年生で「外国語活動」、5・6年生で「外国語科」を新設します。また、平成32年度からは1・2年生においても「英語活動」を実施し、英語への慣れ親しみを深め、小中学校9年間で子どもたち一人一人の実践的語学力とグローバルコミュニケーション力の育成を着実に図ります。



▲英語による読み聞かせ

■多文化学習推進プログラム

京都で学ぶ留学生等を講師として招き、小中学生がその国の文化や言葉を学んだり、遊びなどを体験したりします。

■英語検定の検定料補助

中学生の実用英語技能検定料を一部助成し、受検を奨励することで、主体的な英語学習を支援します。

■ジュニア京都検定テキストブック英語訳版

中学生向けに「ジュニア京都検定テキストブック英語訳版」を作成し、京都ならではの英語での「おもてなし」の実践を目指します。

社会的・職業的自立に向けた 生き方探究教育(キャリア教育)

■京都まなびの街生き方探究館での学習

○スチューデントシティ(小学4~6年生)・ファイナンスパーク(中学1・2年生)学習
施設内に再現した「街」の中で、子どもたちが、接客や販売等、一人の大人として働くことや収入と支出を踏まえた生活設計などを通して、社会と自分の関わり、経済の仕組み、働くことの意義を学ぶ活動を行っています。



▲ファイナンスパーク学習

○京都モノづくりの殿堂・工房学習(小学4~6年生)

「京都モノづくりの殿堂・工房」を設置しています。殿堂では、京都のものづくり企業及び創業者、科学者等の努力や情熱等その生き方から学ぶ展示学習を行っています。工房では殿堂で学んだもののづくりの原理や仕組みを実際に体験する学習を行っています。

■生き方探究・チャレンジ体験(中学2年生)

約3,600の事業所等の御協力の下、約1万人の中学生が、それぞれの興味や関心に応じた3~5日間の職業体験・勤労体験活動を行っています。

理科・科学好きな子どもを育てる

■青少年科学センターでの学習

「青少年科学センター」では、小学6年生、中学1年生の児童・生徒及び定時制高等学校、総合支援学校の児童・生徒を対象に、実験室・展示場・プラネタリウム・屋外施設等を利用した理科学習を実施しています。



■未来のサイエンティスト養成事業

理科・科学好きの小中学生が、自らテーマを決めて取り組む研究活動を支援したり、大学・企業等による最先端の技術を活かした実験教室に参加し、科学の不思議や面白さを体感する、「未来のサイエンティスト養成事業」を実施しています。

問い合わせ:青少年科学センター TEL(075)642-1601

学習環境の整備

■ICTの整備と活用

すべての普通教室にインターネット接続環境を整備し、小学校5・6年生の全教室に電子黒板を配置しています。



▲電子黒板を使った授業

■普通教室の冷房完備

夏の暑い日でも集中して学習に取り組めるよう、すべての普通教室に空調設備を設置しています。

■学校図書館の充実

・すべての小中学校に学校司書を配置し、読書活動の推進や、授業での学校図書館の活用を進めています。

・京都市地域産の木材を使用した机や椅子、書架の配置など落ち着いた環境の学校図書館づくりを進めています。

・各市立図書館では、専用車両「青い鳥号」で小中学校等に出向き、ブックトークや読み聞かせなど、出前事業を実施しています。

心の居場所づくり

■こども相談センターパトナ

不登校・いじめや友人関係、性格や行動、心のケアを要すると思われる気がかりな点、学習や学校生活のことなど、教育上の様々な問題や、保護者の子育ての不安について、約40人の教育・心理専門のカウンセラーが相談に応じています。



▲こども相談センターパトナ

■不登校生徒の学びと育ちの場

不登校を経験した子どもが独自のカリキュラムで学ぶ「洛風中学校」「洛友中学校」を設置。また、市内5箇所に設置する「ふれあいの杜」学習室では、不登校が長期化した子どもに対し、学習支援やスポーツ、創作活動など多様な活動を通して、個々の状況に応じた支援に取り組んでいます。

■スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置を充実

不登校やいじめをはじめとする様々な教育課題に対応するため、心理臨床の専門職であるスクールカウンセラーを全校に配置し、さらには、社会福祉等の専門職であるスクールソーシャルワーカーの配置校の拡大など、教育相談体制の充実を図っています。

健康でたくましい体づくり

■大文字駅伝

冬の「大文字駅伝」大会は、平成29年度に第32回大会を迎えます。市内の小学6年生が都大路をたくましく駆け抜けます。



▲大文字駅伝大会

■運動部活動の充実

・中学校では、専門性のある「外部コーチ」の派遣や、人数の少ない複数の学校で行う「合同部活動」、自校にない他校の部活動に参加できる「ブロック内選択制部活動」など、生徒の希望と意欲を尊重する取組を行っています。また、小学校では、地域ボランティアの御協力を得ながら、各地域の特色を生かした部活動を実施しています。

・より安全で充実した部活動を目指し、運営の指針となる本市独自のガイドラインを策定しています。

興味・関心をのばす体験・学びの場

■長期宿泊・自然体験(小学4・5年生)

小学4年生で「奥志摩みさきの家」等に2泊3日、5年生で「花背山の家」等に3泊4日以上宿泊し、自然の中で集団活動等を行うことで、豊かな人間性を育みます。

■大人みんなが子どもたちの学び育ちのために! 「みやこ子ども土曜塾」

土日祝日や夏休み等の学校休業日に、企業や大学、NPO 等が実施する伝統文化・自然活動等の体験活動を、ホームページ及び情報誌で発信しています。

#

幼児教育と子育て支援の充実

主体的な遊びや活動と幼児期の発達にふさわしい生活を大切にする市立幼稚園

【市立幼稚園の特色】

- 自然に触れる園外保育を充実しています。
・京都の四季折々の自然を味わう園外での保育を通して、豊かな感性、好奇心、表現力を育みます。
- 京都の伝統を体験します。
・葵祭・祇園祭の見学、茶道体験等の伝統文化や節分・子どもの日・お月見等、季節の行事を取り入れた保育を進めています。
- 命の大切さ、食の大切さを学びます。
・うさぎなどの生き物を育て、生命を大切にする心を育んでいます。
・大根・豆・とうもろこしなどを栽培・収穫・調理などの体験を大切にしています。
- 研究発信に努めています。
・幼児教育に関する研究を進め、公開保育・研究発表会場で研究成果を広く発信しています。

【教育・保育の3つの柱】

- 子どもを受け止め、認め、自己肯定感を育む保育の中で、
- 好奇心・探究心・思考力・表現力など、小学校以降に繋がる「学びに向かう基礎力」を育みます。
 - 人と折り合うことや相手を尊重する気持ちなど、道徳性・規範意識の芽生えを培います。
 - 自ら体を動かそうとする意欲や必要な生活習慣を身に付け、健康な体を育みます。



市内の幼稚園児の約9割が通園する私立幼稚園では、それぞれの園が建学の精神や教育方針に基づき、特色ある教育活動を実践されています。本市では、私立幼稚園への運営助成を通して、子どもたちの教育環境の充実に向けて取り組むとともに、幼小連携の観点からも私立幼稚園との連携を進めています。

京都市子育て支援総合センター こどもみらい館

保育園(所)・幼稚園の垣根を越えた共同機構として研究や研修を行う「こどもみらい館」では、親子で遊べる「こども元気ランド」や「子育て図書館」など魅力ある施設、子育て相談や講座などの開催、ボランティアの養成や子育てサークル等の情報発信など、乳幼児の子育てをあらゆる角度から支援しています。



▲親子ふれあい遊び

- 問い合わせ TEL: (075) 254-5001
- 開館時間 平日 9:00~21:00
日・祝 9:00~17:00
(火曜日休館)

私立幼稚園・市立幼稚園で 進める子育て支援

・預かり保育の充実

ほぼすべての私立幼稚園が「預かり保育」を実施されています。本市では、私立幼稚園における「預かり保育」の充実に向け、独自の助成制度を創設し、預かり日数の拡大や預かり時間の延長を支援するなど、保護者の多様な教育・保育ニーズに応え、就労状況に関わらず、幼稚園を利用しただけの環境を整備しています。また、市立幼稚園でも全園で長期休業期間中を含む平日18時まで預かり保育を実施しています。

・地域子育て相談

市内のほぼすべての幼稚園で、保護者の身近な子育てに関する相談を受けたり、園庭・遊具・図書室等の開放を行うなど、幼児の体験活動や保護者の子育てを支援しています。

- 問い合わせ
各幼稚園へ直接お問い合わせください。

親支援プログラム ほっこり子育てひろば

保護者同士が、子育てをする中で感じている不安や悩みなどをテーマに沿って語り合うワークショップ形式のプログラムです。喜びを感じながら子育てできるよう、子育てに必要な知識・情報を提供するとともに、親自らが育つための気づきと学びの機会を提供します。



▲ほっこり子育てひろば

- 問い合わせ
子ども若者はぐくみ局
子ども若者未来部育成推進課
TEL: (075) 746-7610
こどもみらい館 TEL: (075) 254-5001

規範意識の育成・いじめの防止等の取組

規範意識の育成

- あらゆる教育活動において、子どもが人と人とのつながりを大切にするとともに、ルールや法の重要性について自覚できる取組を推進します。

■ 中学校生徒会議・サミット

学校のきまりや社会のルールを守り、主体的に判断・行動することができるよう、全市の中学校の生徒会代表による「中学校生徒会議・サミット」を開催。決議の内容を全中学校に発信し、各校の生徒会の活性化につなげています。

いじめ防止等の取組

- 「京都市いじめの防止等に関する条例」「京都市いじめの防止等取組指針」に基づき、いじめを許さない学校づくりを市民ぐるみで進めています。
- スマートフォンなど情報通信機器の普及による情報化が進む中、インターネット上での誹謗中傷やいじめが懸念されています。子どもたちが被害者にも加害者にもならないよう、PTAや携帯電話事業者等との連携を進めています。

薬物乱用防止の取組

- 薬物乱用防止教室の全小・中・高等学校での実施や、保護者への啓発活動、効果的な指導実施のための教職員研修の充実など、関係機関と連携しながら、青少年の大麻などの薬物乱用防止に向けた取組を推進しています。

市民ぐるみでいじめをなくそう

～京都市いじめの防止等に関する条例及び取組指針を策定～

京都市教育委員会

- 取組指針の策定とともに、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、再発防止等の取組を行う。
- いじめへの対応や教職員の資質向上、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置等を行う。

学校

- 学校いじめの防止等基本方針を策定する。
- 校内体制を整備する。
- 子どもの規範意識を醸成する。
- いじめの未然防止、早期発見、再発防止、いじめ事案への対応を行う。

京都市

保護者、市民、事業者、関係機関等と連携して、いじめの防止等の取組を京都市総体として推進する。



保護者

- 子どもがいじめをしないよう、健やかで心豊かに育む。
- 子どもがいじめを受けたら適切にいじめから保護する。

市民・事業者

- いじめの防止等の対策に積極的に協力する。
- 子どもが健やかで心豊かに育まれる環境の整備に努める。

子どもの命を守り、子どもが安心して生活し、学ぶことができるよう、いじめをなくしていきましょう。

頑張る先生を応援します!!

研修の充実・資質向上の取組

■ 京都市総合教育センター

平日夜9時まで、土曜日も夕方5時まで開館している京都市総合教育センターでは、「明日から使える」教科指導法など教員の資質・指導力向上に向け、研修を年間約240講座を実施。延べ約5万人の教職員が熱心に研修に取り組んでいます。

また、教職員一人一人の持てる力が発揮される学校組織づくりに向けて、学校・幼稚園内での実践的な研修・研究活動やOJT(職務遂行を通じての研修)を支援しています。



▲研修の様子

■ カリキュラム開発支援センター

総合教育センター内3階に開設している「カリキュラム開発支援センター」では、教育図書や学習指導案など約9.5万点の教育関係資料を配架。多くの教職員が自主的な研修・研究に役立て、授業改善を図っています。また、優れた授業映像や教材などを「総合教材ポータルサイト」で配信しています。土曜日も開室し、教育図書などの貸出も行い、日々の授業に活用できる環境を提供しています。

■ 「大学のまち・京都」ならではの連合教職大学院

京都教育大学を基幹大学とし、6私立大学が協働、京都市教育委員会も運営に参画する全国初の連合教職大学院で、現職教員や教育関係職員が学びます。

実践力のある教員を養成

■ 京都教師塾

教員を志望する大学生や社会人を対象にした、政令指定都市初の教師塾。

塾生は、学校現場での実地研修等を通して、現職教員の熱意や本市教育の理念に触れ、教師に求められる資質、実践的指導力に磨きをかけます。これまでに4,000名を超える塾生が学び、卒業生の多くが教員として活躍しています。



▲塾生による模擬授業

熱意あふれる教職員の表彰

■ 教育実践功績表彰

優れた教育実践を行っている教職員やグループを表彰しています。表彰者の選考には、保護者・市民、経済界の代表にも参画いただき、幅広い視点からの意見を反映しています。平成28年度には262名、10団体が受賞しました。

保護者・地域の皆さまと共に

子どもたちのために考え行動する 市民ネットワーク

～「京都はぐくみネットワーク」として新たなステージへ～

「人づくり21世紀委員会」は、『子どもたちのために、今、大人として何ができるか』を共に考え行動するネットワークとして、市内116団体（平成29年2月現在）の参画のもと、平成10年2月に発足。

虐待やインターネットの不適切利用など、子どもたちを取り巻く今日的課題を共有し、その解決に向けた研修会の実施や「京都はぐくみ憲章」の実践と普及に取り組んでいます。

また、各行政区で組織される「人づくり」ネットワーク実行委員会では、子育てトークや中学生と地域の大人とのふれあいトーク等、地域に根差した特色ある取組を展開しています。

平成29年度「人づくり21世紀委員会」は設立から20周年、制定に向け提言を行った「京都はぐくみ憲章」も10周年を迎えます。

これを機に「人づくり21世紀委員会」は、6月から「京都はぐくみネットワーク」に名称を変更し、より充実した活動を展開していきます。



憲法月間人権啓発パレード

スマホ・ゲーム機等の 危険性・依存性から子どもを守る

小中学生の健やかな育ちには、原則としてケータイ・スマホは必要ありません。小中学校においては、家庭と連携を図りながら、スマホとの付き合い方を子どもたちが主体的に考える「スマホ学習」を実施しています。持たせる必要があれば、利用方法や目的、ルールやマナーについて御家庭で話し合いましょう。

また、情報モラル市民インストラクターをPTA研修会や地域の集まりにも派遣しますので、お気軽にお問い合わせください。



情報モラル市民インストラクターによる講座

問い合わせ：生涯学習部学校地域協働推進担当
TEL (075) 251-0456

PTAの取組 ～行動するPTA～

保護者と教職員が力を合わせるPTAの活動によって、子どもたちは学校でいきいきと過ごすことができます。

本市PTAでは、「京都はぐくみ憲章」の実践に向け、危険薬物の乱用やネット被害、いじめの根絶等に立ち向かい、子どもたちの命と健やかな育ちを守る活動を行っています。



▲京都市役所前での街頭啓発

おやじの会 ～わが子の父親から地域のおやじへ～



▲京都市動物園での啓発活動

父親の積極的な子育て参加を目指して、市内の150を超える学校・幼稚園で「おやじの会」が発足。子どもとのふれあいをテーマとした体験活動など、年間1,000以上の事業を行っています。

また、父親の子育て参加に理解のある企業を「OK(O:おやじの/K:子育て参加に理解がある)企業」として認定し、その取組を推奨することにより、「真のワーク・ライフ・バランス」を推進しています。

放課後まなび教室



▲放課後まなび教室

放課後の子どもたちの「自主的な学びの場」と「安心・安全な居場所」の充実を目指し、余裕教室や図書室等の学校施設を活用し、全小学校区・全児童を対象として実施。保護者・地域・学校運営協議会・学生等の支援の下、子どもたちは宿題や読書・文化活動等を行っています。また、児童館や学童クラブ事業との連携も進めています。

市民ぐるみ・地域ぐるみで進める京都市の教育改革

小中一貫教育・校種間連携で進める京都ならではの教育

学力向上

- 全校での学力向上プランの作成
- 中学校「学習確認プログラム」・小学校「プレジョイントプログラム」「ジョイントプログラム」
- 京都市スタンダード(指導計画)
- 30人学級・35人学級
- 専科教育・習熟度別指導
- ティームティーチング
- 205日以上の年間授業日数
- 放課後・学カステップアップ事業

京都ならではの教育

- 大学との連携による教育の充実
- 環境教育
- 理科教育
- ICTを活用した教育
- 新聞を活用した教育
- 子ども読書活動
- 京英語スタンダード
- 伝統文化教育・ジュニア京都検定
- 食育カリキュラム・地産地消(知産知消)
- しなやかな道徳教育
- 長期宿泊・自然体験活動
- 土曜学習

【生き方探究教育(キャリア教育)】

- 生き方探究教育スタンダード
- 生き方探究・チャレンジ体験
- スチューデントシティ・ファイナンスパーク学習
- 京(みやこ)少年モノづくり倶楽部
- 京都モノづくりの殿堂・工房学習

支援の必要な児童・生徒の教育の充実

- 全国初の総合制・地域制の総合支援学校
- 個別の包括支援プランの作成・活用
- 育成学級・通級指導教室の新増設
- 総合育成支援員の配置
- 総合支援教育相談センター「育(はぐくみ)支援センター」
- 総合支援学校高等部職業学科・デュアルシステムの推進

市立高校改革の推進

- 西京高エンタープライジング科・中高一貫校
- 京都工芸繊維大フロンティア理数科/プロジェクト工学科
- 堀川高人間探究科/自然探究科
- 日吉ヶ丘高進学型単位制
- 紫野高アカデミア科
- 塔南高教育みらい科
- 京都堀川音楽高(公立音楽専門高校)
- 銅駝美術工芸高(公立美術専門高校)
- 「新しい定時制単独高校」創設
- 「新しい普通科単独高校」創設

児童・生徒の健全育成

- 【心の居場所づくり】
- 教育相談総合センター「こどもパナ」
- スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置
- こども相談24時間ホットライン・こども専用ハートライン・いじめ問題サポーター・いじめメール相談
- 不登校を経験した子どものための洛風中学校、洛友中学校、ふれあいの杜
- 学校経営支援ツール「クラスマネジメントシート」の実践

【規範意識の醸成・人権教育】

- 中学校生徒会協議宣言(8.18宣言)・中学校生徒会サミット宣言(8.29宣言)
- 非行防止教室
- 「学校における」人権教育をすすめるにあたって
- 多文化学習推進プログラム
- ケータイ教室

【健康教育・体力向上等】

- 小学校部活動
- 性教育・エイズ教育
- 中学校部活動
- フット物洗口
- 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育

【学校安全対策の推進】

- 防災教育スタンダード
- 安心安全情報等の発信機能を持つPTAホームページの開設
- 防犯カメラの全校設置
- 緊急連絡インターホンの教室への整備
- 通学路の安全対策

教員の指導力の向上

- 京都教師塾
- 教職員研修
- 教職員評価システム
- カリキュラム開発支援センター
- 教育実践功績表彰
- 指導力不足教員対策

教育環境の充実

- 京都方式の学校統合
- 学校冷房化
- 学校施設の耐震化
- 体育館・プールの防災機能強化
- 校内LAN・デジタルテレビ・電子黒板の整備
- 快適トイレ・洋式トイレの整備
- 花と緑あふれる学校推進事業
- 校庭の芝生化
- 緑のカーテン
- 環境に配慮した学校施設の長寿命化
- 雨水タンクの設置
- 太陽光・風力発電設備
- 学校施設の高度活用(児童館設置等)

開かれた学校づくり・学校を拠点とした地域コミュニティの活性化

- 学校運営協議会
- 学校評議員制度
- 学校評価支援システム
- 自由参観・参観週間の設定
- 学校だよりの地域回覧
- 全校でのホームページ開設
- 学校コミュニティプラザ事業
- 学校ふれあいサロン
- 学校ふれあい手づくり事業

ボランティア・市民の皆様とともに実施(共 汗)

市民・各団体の参画により政策を推進(融 合)

学校支援ボランティア 学生ボランティア 日本語指導ボランティア 通訳ボランティア

- KES環境機構
- NPO法人気候ネットワーク
- 理科観察実験アシスタント
- 科学センターボランティア
- 英語教育支援員
- ICT活用支援員
- 食育指導員
- 学校図書館ボランティア
- 学校図書館運営支援員
- スチューデントシティ・ファイナンスパークボランティア
- 京モノレンジャー

- 総合育成支援教育ボランティア
- 総合育成支援員

- ふれあいアシスタント
- 学びのパートナー
- 洛風・洛友パル
- ハートケアボランティア
- すばるパートナー
- 掃除に学ぶ「便きよう会」

- 小学校部活動指導者ボランティア
- 外部コーチ派遣事業

- スクールガードリーダー
- 学校安全ボランティア・見守り隊

- グリーンベルトボランティア
- NPO法人芝生スクール京都

- 連合教職大学院
- 教育実践功績表彰選考委員会
- 指導力不足教員判定委員会
- 113大学との連携協定

- 学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会
- ふれあいサロン管理運営委員会
- コミュニティプラザ管理運営委員会

家庭・地域の教育力向上・子育て支援

- 京都はぐくみ憲章
- 子どもと共に育む「親支援」プログラム(ほっこり子育てでるば) 青少年のための親学習プログラム
- 行動するPTA
- おやじの会
- 親子のこころの電話 温もりの電話
- 子どもみらい館
- 電話相談・子育て支援・絵本ふれあいボランティア
- 子どもみらい館企画推進会議
- みやこ子ども土曜塾
- 人づくり21世紀委員会
- 子どもの「インターネット」利用に関する連絡会議
- 情報モラル市民インストラクター

多彩な生涯学習の推進

- 生涯学習総合センター(京都アスニー・アスニー山科)
- 京まなびミーティング
- はたちプロジェクト
- 学校歴史博物館

図書館サービスの向上

- 全市立図書館の夜間・祝日開館
- インターネットによる蔵書検索・予約システム
- 図書館返却ポスト
- 学校への団体貸出・出前ブックトーク等による学校支援

- 博物館ふれあいボランティア
- 地域教育サポーター
- 「古典の日記念京都市平安京創生館」案内ボランティア

- 図書館ボランティア

- 社会教育委員会
- 生涯学習市民フォーラム
- 京都市内博物館施設連絡協議会
- 視聴覚センター運営委員会

- 図書館協議会

確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた育成

生涯学習

社会全体で子どもを大切にはぐくむ

～平成29年4月、「子ども若者はぐくみ局」を創設～

京都市では、これまでから子どもを社会全体で育むための市民共通の行動規範である「京都はぐくみ憲章(子どもを共に育む京都市民憲章)」及び「子どもを共に育む京都市市民憲章の実践の推進に関する条例」に基づき、子どもを市民ぐるみ、地域ぐるみで育むまちづくりを進めてきました。

こうした取組を礎に、子どもの成長段階に応じた切れ目のないきめ細かな取組をより効果的かつ強力に推進するため、これまで各局等が連携を図りながら実施してきた子どもや青少年に係る施策を融合し、総合的に担う「子ども若者はぐくみ局」を平成29年4月に設置しました。

「子ども若者はぐくみ局」とは？

■ 子どもや家庭、若者に関する行政施策を融合！

- 子どもと子どもの家庭への支援に関すること
- 子どもの成長に関すること
- 青少年等に係る支援施策など

■ 「はぐくみ文化」を創造・発信！

京都に脈々と息づく「子どもを地域や社会の宝として大切に育む生活文化」を「はぐくみ文化」として創造、発信するとともに、子どもの成長や発達に適應した切れ目のない支援や子育てを共に支え合う地域づくりをより一層進めてまいります。

また、29年5月には、各区役所・支所に
子どもや子育てに関する相談や手続きに一元的に
対応する「子どもはぐくみ室」を設置します。

■ 子ども関連の窓口を一元化！

出産や子育ての相談・支援、児童手当・保育所入所の申請、予防接種などに関する窓口を統一。職員が窓口で適切なサービスを案内する「子育て支援コンシェルジュ」の取組を推進します。

ご利用ください
はぐくみコール

「子育て支援総合電話窓口(はぐくみコール)」

本市が行っている子育て支援に関する施策等を幅広く紹介しています。
(年中無休) 午前8時～午後9時 TEL:075-254-8087

京都はぐくみ憲章

～子どもを共に育む京都市民憲章～



わたしたちは、

- 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆を大切にします。
- 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- 子どもを育む自然の恵みを大切に、社会の環境づくりを優先します。

平成19年2月5日(育児ニコニコ笑顔の日)制定
3月13日 京都市会が憲章推進を決議

